

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500096		
法人名	有限会社 アーバンエステート		
事業所名	グループホーム まえはら		
所在地	宜野湾市真栄原3-9-28		
自己評価作成日	令和4年 11月 3日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>出会いに感謝し、家族さんの想いや希望を汲み取り、応えられるように心がけている。</p> <p>入居者さん一人一人に合った出来る事役割を担って頂き、家庭的雰囲気を楽しんで、笑いの絶えない生活、心身の状態に合わせたケア、レク活動を行い、園外レク、ドライブ、買物等楽しみある、自分らしい生活が出来るよう、利用者、職員お互いに支え合いながら支援していくことを心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地の住宅街に立地し、小中学校の校庭に隣接している。交通量の多い表通りから裏通りに入るため、交通量は少ない環境である。表通りにはスーパーがありその抜け道となっていて人通りは多い。事業所のテラスは、道路に面しており、校庭での子どもの声や行き交う人との挨拶等、地域に根付いた環境となっている。コロナ禍以前は、利用者はテラスを活用し子どもたちや通行人等との挨拶を交わっていた。コロナ感染予防対策においては、外部との接触の制限が求められるが、できる限り室内でも外部の様子を感じ取れるような取り組みや、差し入れ等で訪問する方々との距離を置いた交流を行っている。</p> <p>事業所でも職員・利用者の感染があったが、運営する他の事業所と連携して対応を行った。日常的に管理者・代表者は職員の意見を重視し、職員から上がった改善点や物品の購入等について迅速な対応を図り、働きやすい環境の整備を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や入居者の家族が目に入る場所に理念を掲示している。職員一人一人が意識して利用者が安心して生活できる支援を行う。	理念は、開設時に代表者・管理者・職員で作成した。利用者が自宅のように生活できる事業所を目指して「出会いに感謝し、楽しく生きる」を理念に掲げている。職員は利用者・家族・関係者等との出会いに感謝し楽しく支援を行うように理念の実践に繋げている。理念は、事業所内の玄関から目に入る場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で面会を制限しているが、コロナ前は地域の方が来所し利用書とお喋り等を楽しんでいた。	事業所は、住宅街の中に立地し、小中学校の校庭が隣接している。コロナ禍以前は、校庭が見渡せる場所にあるバルコニーから、子どもたちと交流していた。自治会に加入しており、お盆の時期には、青年会のエイサー隊が、事業所前の駐車場で演舞を披露した。地域からの差し入れも多く、制限下の中でできる限りの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は中学生、高校生を対象に職場体験授業の受け入れを行い、認知症への理解して頂けるように務めていたがまだコロナが落ち着かず自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回行っていたがコロナ禍でもあり書面会議のみで行っていた。今はコロナが少し落ち着いてきた事もあり出来るだけ開催している。	対面で実施できる運営推進委員会の際には、昼食時に委員会を開催し、委員にも昼食を供している。委員には、自治会長や保護司等が参加し、地域との情報共有を図っている。コロナ感染状況により、書面開催を行う際には、委員の意見を文書で収集し、報告書に記載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響で、介護長寿課とは電話やファックスでのやり取りだがコロナが少し落ち着いて来ている為開催した際には意見を頂いている。	運営推進委員会の委員には、市の長寿課職員、地域包括支援センター職員を委嘱しており、連携を図っている。コロナ禍で対面での情報共有は制限されているが、FAXや電話等を活用した情報交換を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回勉強会を行い、職員同士、相談助言、話し合いを日頃からしており、身体拘束について意識している。	毎月開催している勉強会で、身体拘束をしないケアに取り組むための学びを行っている。外部で行われる認知症実践者研修に職員が参加し、学んだことを勉強会で共有している。勉強会の内容や、身体拘束をしないケアの実践について運営推進委員会で報告している。身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の開催についての記録の整備に期待したい。	身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の開催についての記録の整備に期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング・勉強会で虐待について話し合い、事例等をあげ日頃のケアについて考える機会を設けている。	虐待防止についてマニュアルを整備している。毎月開催している勉強会では、身体的拘束をしないケアと虐待防止について関連性を意識して学びを深めている。日常的なケアの際に、職員間で気になる言動について指摘する事により虐待につながる不適切なケアの防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者の権利擁護について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書の内容を読み上げ分かりやすく説明することを心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族から意見や要望を聞いたり電話等でお話を伺い職員で対応、共有している。	利用者家族から体力維持のため運動の実施についての要望が多い。個々の体力に応じて立位や座位での運動を取り入れている。喫煙についての利用者の要望がある際には状況に応じて検討している。買い物の要望がある際には、近隣のスーパーに同行し支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から申し送りをし意見を聞き、毎月のミーティングでも報告し反映するように心がけている。	職員の年休取得やシフトについての希望を反映して、管理者は毎月の勤務表を作成している。電化製品等の備品整備について管理者は職員の意見を集約し、代表者へ報告し対応している。代表者は、頻回に事業所を訪問し、職員の声に耳を傾ける機会を確保している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が得意な事をケアに生かし役割を持ってもらい、自信とやりがいに繋がりに楽しく仕事出来るように努めている。	各種手当や休暇、ハラスメント防止対策等を明記した就業規則が策定されている。資格取得希望者についての研修受講や試験対策講座の開催等の支援を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に参加してもらい、介護福祉士所得が出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	色々な研修に参加し、交流の機会を確保を行っている。また相談等を行い、他事業所を訪問し情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者から相談があった時点より本人との会話を意識し行い、また家族からの情報を頂いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から聞きたいこと、不安な事を傾聴している。ご家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の想いや希望を傾聴し、また、以前利用していた事業所等の情報を踏まえうえでアセスメントを行い、ケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る家事等を行って頂き、共同生活に参加していると実感してもらえるように心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況や、心身の変化等があった場合報告し、一緒に考える立場としての関りを大事にしている。ご家族と一緒に本人を支えていく関係が出来ている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍かであまり出来ていないが入所前に住んでいた周辺や買い物をしていった商店を巡るドライブ等を行っている。	利用者の家族や関係者との関係継続支援については、入所時の資料や日々のケアでの聞き取り等で把握に努めている。コロナ禍以前は、家族の訪問・関係者の訪問があった。コロナ禍の制限下では、馴染みの場所への個別のドライブを行い支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士相性を配慮しながら手工芸やレクの提供を行っている。また、食事の際皆で食べられるようにし、問題が起こった場合適宜席を変えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に支援が必要な方には、出来るだけ支援を行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを傾聴することを意識して行っている。また、表出の困難な方に関しては、日頃の生活から情報を得るようにし、職員間で共有するようにしている。	利用者の思いや意向を把握するために、ケアの中で思いを傾聴している。意思表示の困難な利用者については、表情や行動から把握することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族、以前利用していた事業所より情報を頂くようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のペースに合わせ、身体状況を見ながら過ごして頂いている。手先の器用な方には洗濯物たたみややしのひげ取りの手伝い等をお願いしている。また、個人差はあるがパズルや色塗り等の提供を勧めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族と面談し、意見や希望を聞き、今必要な事、希望等の意見を職員間で話し合い共有し介護計画に反映させるようにしている。	家族・利用者が参加した担当者会議を6カ月に1回開催している。コロナ禍では、対面での開催に制限があり、家族については電話での確認を行っている。職員は、利用者の生活歴から趣味の三線や得意な家事等の情報を収集し日々の介護計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を行い、気づいたこと、気になる事がある場合、職員間で話し合い情報を共有し把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の「やりたいこと」を大切に、ニーズに応えるように常に情報収集に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護は今も行っておらず訪問理美容を利用している。コロナ禍の影響で外出活動や地域交流はほとんど行えていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の継続受診を行っている。また、基本的には家族に受診を依頼している。	かかりつけ医の継続や訪問診療等、医療機関との関係を密に結んでいる。受診は家族対応で情報提供書を家族に託し、結果は口頭で受けたり医療機関に確認している。訪問診療結果は、状況変化時には家族に連絡している。定期的にPCR検査を行い、排便状況、体重増減、食事を毎月確認し健康管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でもケアマネに報告し、不安や疑問を相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、必要な情報交換を行っている。また、日頃の定期受診でも情報提供することで、良好な関係を保てるよう努力している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して状態の変化があった場合、ご家族とご本人を中心に考えホームでご家族が看取りを希望された場合、本人、ご家族、主治医、看護師との連携を図り終末期を過ごしてもらえるようにチームで支援に取り組む。	重度化や終末期の方針、看取りの指針も明確にしている。状態変化時に家族に説明して、延命措置に関する確認書で家族の意志を確認している。状態変化時に家族、診療医や訪問看護師と連携を図りターミナルケアを行っている。看取り時例もあり、職員は看取りについて研修も行われている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行っている。また、応急手当等の資料を目につくところに掲示し職員の意識付けしている。利用者の状態をSNSで看護師に伝え緊急対応出来るようにしている。	緊急事故対応マニュアルも整備し、急変時対応の研修も実施している。事故、ヒヤリハット時はその場の職員が初期対応し看護師に連絡、報告書も作成し検討している。利用者の日々の状況、状態を把握し見守りや活動時(作品作り。色塗り等)には、飲み物等を近くに置かない事を徹底し再発防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	年2回(昼間想定、夜間想定)、消防署との避難訓練を行っている。コロナ対策の勉強会を開き感染者が出た時の対応のシミュレーションを行うなど職員間で話し合い共有を図っている。	年2回昼、夜想定避難訓練を実施している。昼想定は自主訓練で、夜想定は消防署協力で実施し、課題等は検討して取り組むとしている。水やレトルト食品等を備蓄している。感染症については研修も行われている。職員、利用者各1名が新型コロナウイルスに感染し、情報収集して事業所内でRED/GREENゾーンを設定して、まん延防止に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助・介護をする立場ではなく、お手伝いをさせて頂くという立場での声かけ・支援を心がけている。また、言葉遣いなど接遇の勉強会をし、職員一人一人が尊重できるように対応している。	日々の生活の中で、人生の先輩として尊重しての言葉かけや支援を心がけている。介護職員のやってはいけないポイントや接遇研修も実施している。排泄支援、入浴支援時など、一人ひとりの誇りやプライバシーをそこねる対応をしない事を徹底している。個人情報保護方針や利用目的も公表している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりだけではなく、個別での外出機会を設けたりしている。本人の表情や態度から本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟なタイムスケジュールにし、本人の希望や体調に合わせて過ごしてもらえるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントのプレゼント等を利用し、必要な物やお洒落を楽しんでもらえるようにしている。また、訪問理美容によるカットの際本人が気に入った髪型にしている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の好きなものを聞き出されるだけ提供するように努めている。また、調理の下ごしらえ(もやしのひげ取り)を手伝ってもらっている。	食事は、利用者の希望を聞いたり、地域住民からの差し入れの食材(肉や野菜など)を活用して、調理担当職員が3食事業所で調理している。利用者は下ごしらえやテーブル拭きに参加している。利用者の状況や摂取量により、おにぎりにしたり副食を多めにするなど工夫したり、季節に合わせてのメニュー、おやつ作りなど、食事が楽しくできるような雰囲気づくりをしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の摂取しやすい形態での提供や食べたい時間に食事の提供をし、水分は希望時や自由に摂取出来るように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、本人の習慣を尊重しながら口腔ケアの支援を行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを各職員が把握しトイレでの排泄を大切に、声かけや支援を行っている。	排泄パターンを把握して、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。オムツの方もおり居室での交換時は戸を閉め、トイレの場合は外で見守り、コールや声等の合図で支援するなどプライバシーに配慮している。全員が車イスで、椅子からの立ち上がり等を工夫して行い、立位保持、下肢筋力強化に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員と相談し食事や水分量を調節し、利用者負担にならないように支援を行っている。また、体操や腹部のマッサージも行っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の体調や気分、タイミングに合わせて入浴して頂いている。排泄の失敗があった場合その都度入浴して頂いている。	入浴は基本週3回で、シャワー浴で、ゆっくり入浴を楽しみ、本人ができない処を支援するよう努めている。座位が不安がある場合はストレッチャーで2名で支援し、嫌がる場合は言葉かけの工夫や好きな音楽をかけて浴室に案内したり、時間を変えて対応している。着替えは、利用者に関わりながら準備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、ソファ等を利用し、自由に休息がとれるように環境整備を行っている。また、日中も休みたい方がいたらその都度対応している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が服薬情報に目を通し、ミスが無いようにしている。ご本人に合わせた服薬法要での支援を行っている。	利用者の服薬情報は個別ファイルに保管している。職員は、服薬事故、安全管理について検討会議も行い、服用後の袋をすぐに破棄せず所定のケースに保管、確認して破棄する事で、飲み忘れや誤薬防止に取り組んでいる。服薬の準備から服用までの流れの共有するフローチャートを作成が望まれる。研修も行われ、適切な服薬が出来るよう支援に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な家事や手工芸を行ってもらっている。また、季節に合わせた園内レクを行い、気分転換や楽しみを感じてもらえるように努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はあまり出来ないが、コロナが落ち着いてきている場合は近場ではあるがドライブや散歩などを行っている。	コロナ禍で、日常的な外出は難しいが、事業所周辺の散歩やベランダ等で隣の学園運動会見学や外気浴を行っている。利用者と一緒に近くのドラッグストアへ、ヘアークリーム購入に出かけている。利用者、職員状況に応じて、ドライブや近隣公園に出かけ気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて利用者に金銭管理を行ってもらっている。また、希望に合わせて買い物が出るように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけるようにしている。また、支援が必要なが利用者がいれば間に入って取り次いでいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手工芸等で居間を装飾したり、室内やホールに温度計を設置し暑さ、寒さが調整でき居心地よく過ごせるように努めている。	利用者が集う居間は、窓が多く換気にも配慮し、感染症対策として、玄関に消毒液を用意し、利用者の座席も同方向にしている。テーブルの配置は、車イス移動に支障がないように、廊下には物を置かないなど留意している。居間には一緒に作成した季節の作品を飾り、利用者は、色塗りしている方や個々に寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろいろな場所に椅子やソファを配置し、好きな時に好きな人と好きな場所で過ごしてもらえるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具や寝具を持ち込み頂き、本人が居心地よく落ち着ける部屋を作ることができるようにしている。	ベット、クーラー等、利用者居室の状況により、チェストとサイドテーブルを備え付けている。馴染みの衣類用ボックスや椅子、時計等が持ち込まれ、利用者の意向でカレンダーを設置している。作品や手芸等も飾り、一緒に作成した居間の作品を譲り受け、居室に飾る利用者もいる。居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かりにくい所や、間違いやすい所に名前や目印を貼り自由に行動できるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬事故の再発防止や安全管理に向け、服薬支援マニュアルの確認や見直し等への取り組み、及び職員間の意識向上が求められる。	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について職員間で理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努め事故を防ぐ。	定期的に服薬管理について勉強会を行うとともに、服薬支援マニュアルを目につく場所に掲示する等、職員向上に努める。	3ヶ月
2	36	事業所の個人情報の保護方針や利用目的については、掲示する等、公表が望まれる。	個人情報の保護方針を掲示し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行うように努める。	個人情報保護方針の掲示をし、来所された方々に利用目的について確認出来るよう公表する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。